

フランス革命の「友愛」の精神が第4極を行信証する

フランス革命の標語「自由・平等・友愛」は人類の理想でもある。あのベートーベンもあのヘーゲルもあのアナポレオンの出現をその具現であると錯覚した。そしてその後の世界史は第一次世界大戦・共産主義革命・第二次世界大戦・原爆投下・冷戦となつて行

った。資本主義社会は民主主義の自由の旗印の下で科学技術の向上と共に経済的発展を遂げてきた。共産主義社会は平等の旗印の下に万国の労働者の団結を呼びかけてきた。資本主義社会は福祉政策を進め平等の理念を求め、共産主義社会は企業活動を進め民衆のQOL向上の自由の理念を求めている。しかし自由と平等は両立することが難しい矛盾関係にあり、真の友愛の精神は忘れかけられている。真の友愛は自己を無にして、他者に愛を尽くすことである。個々人の能力を最大限高め合うことである。それを社会的に保障するシステムが私の言う社会の第4極である。

他者に愛を尽くす行は、己の愛が他者の利益になっていることを信じて行い、証明することである。それは個々人の心の中でのみ、行信証せられることである。国家の中枢におられる方々は、団体の中心におられる責任者は、その友愛の精神に命をささげて行信証しているだろうか。そんなことできる筈がないと言われる人もおられるでしょう。とすれば、「自由・平等・友愛」は幻想でしかないのでしょうか。その理念を実現する勇氣は一人一人の心の中のみある。そうすることが当然であるようなシステムを作ることが望まれる。それは単なる幻ではないでしょう。

友愛の精神に反したことに気が付いた時、人は懺悔する用意がなければなりません。来年はそのスタートの年にしていきたいと考えています。

(川島)



やさいつくりとイノシシと

今日は掘るぞと意気込んでいたサツマイモを一つ残らずやられてしまった。つるだけが無残にのこったのみ、犯人はイノシシである。くやしくてたまらず、仕方なく、電気柵を設置した。電流にイノシシの鼻が当たると大きな衝撃のようで一度触れたイノシシは二度と近づかない。彼らは学習能力が高い。みみずが好物で所かまわず土地を掘り崩す。だが、彼らにも苦手があるようで、とうがらしやラッキョウを電気柵のない別の畑に植えて様子を見ているがいまのところそこには出没していない。でもいつまで有効かは分からない、そのうちやられるかもしれない。また、彼らに聞いてみないとわからないがシイタケには興味を示さないようだ。みみずをさがしてシイタケイタケの原木をけちらしているがシイタケにはまったく触れていない。イノシシは泳ぐことを最近知った。田舎に帰ると一番さきに畑にむかう。イノシシとの知恵比べはまだまだ続く。近所の友達が肉をくれた。この上なくうまかった。

2、3年前から興味本位本位で「はやとुरり」を作っている。今年は3本で大小あわせて73個と少なかった。平均約230グラム最大300グラム最小120グラム。5月初旬植え付け、10月14日初収穫、11月27日最後の収穫。12月5日霜のため全滅。

糖尿病、高血圧、血液サラサラなどの効用があるという。菊芋、ヤーコン、とまぜて酢漬け、サラダなどで食べている。これで元気にと、いききたいものだ。(草地)



1月行事予定

26日(土)

新年会(一品持

ち寄りで行う予定)